

令和5年度 県立つくば工科高等学校自己評価表

目指す学校像	「豊かな人間性と科学する心をそだてる」を教育目標に、心身共に健全で豊かな人間性を持ち、産業社会のどのような変化にも柔軟に対応できる人材の育成と地域・民主社会に貢献できる人材の育成をとおして、地域に密着した開かれた専門高校を目指す。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	技術力・創造性・探究心を備え、未来の社会を切り拓く人財の育成を目指す。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	技術の習得・ものづくりの精神の育成をし、幅広い進路希望を実現する教育課程を編成・実施する。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	ものづくりへの興味・関心を持ち、最後までチャレンジする生徒を求める。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>学習面では、学力向上委員会を中心に様々な取り組みをしてきた。中でも「Classi」を効果的に活用し、生徒の家庭学習の促進につなげた。「課題研究」では、発表を含め工夫改善が各所にみられた。より探究的な取り組みに進化させた。生徒指導では、基本的な生活習慣やマナー向上のためのきめ細やかな指導が浸透してきており、校内も落ち着いた状態になっている。進路指導では、高い就職内定率を維持している。今後はさらにキャリア教育の指導体制を充実・発展させていく。大学合格者数を増やすための取り組みを充実させたい。学習支援ツールでの指導方法や利用方法の工夫が必要である。部活動では、本校の特色でもある工業系の部活動の活躍が目立った。少人数の部もあるが、加入者を増やし学校の活性化につなげたい。タブレット端末等のICT機器を活用した授業の実践及び工夫の推進を図り、研修会等を実施していきたい。地域行事への参加は、数は少なかったが積極的に行った。また、保護者や地域社会との連携を強化し、生徒数確保を含め積極的に学校をアピールしていく必要がある。昨年度はつくばサイエンス高校の説明会を谷田部ホールで3回実施した。新校の目指す学校像等について理解していただいたが、定員をオーバーすることは出来なかった。今後も、積極的に新校のアピールをしていきたい。</p>	1 学習指導の充実	①教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る ②専門教育の充実	B
	2 生徒指導の充実	③基本的な生活習慣の確立 ④家庭や地域社会、関係機関との連携	B
	3 特別活動等の充実・発展	⑤生徒が主役になる特別活動の充実 ⑥学びを振り返り、生徒の自己実現のためキャリアパスポートの活用	A
	4 進路指導の充実	⑦キャリア教育の計画的な実施と指導の充実 ⑧進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の早期実現	B
	5 保護者や地域社会との連携	⑨保護者とのコミュニケーションと共通理解 ⑩地域社会との積極的な連携と本校の広報活動の充実	B
	6 学習環境の整備	⑪綺麗な学校づくり ⑫安全安心な学習環境づくり	B
	7 働き方改革	⑬教職員の働き方に関する意識改革をし、超過勤務時間の削減 ⑭定時退勤日の設定、年次休暇、特別休暇の取得推進	B
	8 授業改善の推進	⑮授業満足度を4点満点中、全教科平均3.2以上実現 ⑯研究授業の開催、他校視察、相互授業参観による校内研修会の推進	A

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	基本的な漢字の読み書きの力を習得させる	課題を充実させ家庭での学習習慣の獲得を目指し、高校生としての基礎を身につけさせる。 ①②③	B	次年度は、時事問題に対する関心の向上を図るために工夫をする。
		「NIENIE 蟬」から、新聞に出てくる漢字を習得させる。①②③	B	
	文章の内容を理解する能力を養う	一般的な語句や言葉の意味を知り、語彙力を向上させる。①②	B	
		文章を読んで多くの考えに触れ、自己の思考との比較をさせる。①②	A	
	自己表現力を養う	各種文章の書き方を学び、時と場合に応じて文章で表現させる。①②	B	
		俳句を詠み、「お〜いお茶新俳句大賞」に多くの作品を投稿させる。④	B	
時事問題からの考察力を養う	「NIENIE 蟬」の新聞記事やコラムから時事問題について考察させる。①②④	C		
	他者の視点や考え方を知り、それらを自分の考えに反映させる。①	A		
授業満足度の向上	振り返りを通して、生徒の理解度を適切に見取る。⑮	B		
教科指導 (数学科)	基礎・基本の定着・向上	授業における問題演習や家庭学習における課題を充実させることによって反復練習を重ね、基礎学力を定着・向上させる。①②⑫⑮	A	所属する生徒への指導はもちろん、これからの新校の数学科のカリキュラム・指導方法なども平行して皆で考えていきたい。
	個に応じた指導の充実	生徒の習熟度や特性に応じて方法や教材を工夫し、適切な指導を行う。課外授業の実施、進路マップによる学習内容の定着度の確認・分析、工科タイムとの連携による既習事項の学び直しなど、きめ細やかな指導体制を整える。①②⑫⑮	B	
	希望進路に応じた指導の充実	資格・検定試験や希望進路に応じて方法や教材を工夫し、適切な指導を行う。課外授業の実施、個別での添削指導の実施、ICTを活用した発展的な学習の促進など、生徒の学習環境を整える。①②⑦⑧⑫⑮	B	
	授業改善サイクルの確立	教員研修を充実させるとともに、授業アンケートを定期的実施することで、教師と生徒の双方向のやりとりによる授業改善サイクルを確立する。①②⑫⑮⑯	B	
教科指導 (地歴・公民科)	学習への動機付け	授業態度や提出物などを記録し評価に反映させることで、学習に取り組む意欲的な態度を育てる。①②	B	次年度も社会問題や時事問題へとつなげて、生徒が実生活と関連して学習できるように工夫をする。
		授業内容を社会問題や時事問題へとつなげて、実生活と関連して学習できるよう工夫する。①②	A	
	基礎学力の向上	授業内容を生徒の理解度に合わせて精選し、学力が定着するよう促す。①②③	B	
		考査前など、確かな学力が身に付くまで反復学習を心がける。①②③	B	
	公民としての資質を養う	討論や感想文など意見交換を活発化し、常識ある社会人としての規範意識や道徳心を養う。①②	A	
		選挙権年齢の引き下げを踏まえ、議会傍聴などの取り組みを通して良識ある公民としての自覚を持たせる。①②⑩	B	
進学指導の充実	総合型選抜入試や小論文指導など、学年や進路指導部とも連携して行い進学率向上を目指す。⑦	B		
授業改善の推進	各授業でタブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、わかる授業を展開する。①②⑮	B		
教科指導 (理科)	生きて働く「知識・技能」の習得	高校で学ぶ新しい知識を、中学校までの既習内容と関連付けていくことで、理科の重要概念を理解できるようにする。①	A	次年度も理科学習、科学的思考力の基本となる、観察や実験の充実、考察する力などが育成できるよう、工夫改善していく。
		主張や根拠を効果的に表現できるようにするために、観察や実験を通して、器具の使い方や、表やグラフの活用方法が身に付けられるようにする。①②⑦	B	
	未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成	観察や実験の充実を通して、予想・仮説を設定し、データを考察して規則性や法則性を見いだす力などが育成できるようにする。①②⑦	B	

別紙様式2 (高)

	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	学習内容と日常生活や社会との関連を図り、生徒に具体例を考えさせる。①②	A		
		授業プリントなどの活用や提出を通して、生徒が取り組み方を調整したりできるようにする。①	A		
	授業改善の推進	I C Tや外部のコンテンツを活用する。①③	A		
		前年度まで蓄積した授業プリントを改善し、理科教員間で共有する。①⑫⑬	B		
教科指導 (英語科)	基礎学力の獲得・定着・向上を図る	各学年・教科で基本的な語彙数を増やす。基本的な文法力を養う。簡単な表現を使って英語を話す。小テストなどで確認し定着を図る。①⑦⑫	A	B	基礎学力の定着・向上を図るために、学習事項を繰り返し復習する機会を設ける。また資格取得など意欲のある生徒には引き続き個別に支援していく。
	国際的な事柄に関心を持つ態度を育て、国際人としての視野を養う	ALT との Team teaching 等を通して、英語による言語活動の機会を増やし、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。①	A		
		外国の文化や歴史、国際的な話題にできるだけ多く触れさせ、生徒の視野を広げ、グローバルなコミュニケーション能力の基礎を培う。①⑦	B		
	英語力のある生徒の学力伸長を目指す	英語に関心が高く、またある程度以上の習熟度が認められる生徒に対し、英検受検等を勧めるとともに、希望者を対象に対策課外を行う。②⑦	B		
授業改善の推進	確認テスト等で、振り返りを実施しながら生徒の理解度・満足度の向上を図る。⑮	B			
教科指導 (保健体育科)	基礎体力の向上	基礎体力の向上。①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力および集団行動は社会生活を送るうえで必要不可欠な要素であるため、次年度も継続して課題とする。 ・運動技能の習得によりスポーツをより楽しめるよう育成する。 ・自らの健康問題を改善する行動をとれる生徒を育成する。
		体力を高める運動を実践する。①	A		
	運動技能の向上	各単元の基本的な運動技能について指導する。①②	A		
		ゲームを通じて身につけた運動技能を向上させる。①②⑮	A		
	集団行動の確立	集合、整列、方向転換、隊列変化等の集団行動を通して、集団の中の個としての自覚を促す。①	B		
		号令、挨拶、言葉遣い等、基本的な礼儀を指導して、マナーを身につけさせる。①③	A		
健康問題の解決	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。①③	B			
	健康や安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善する能力を育てる。①③	B			
授業改善の推進	参加する生徒全員が活発に活動できるように、生徒の実態に合わせた指導を行う。⑮	A			
教科指導 (機械科)	学習指導の充実	学習時間の確保と学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着・向上に努める。①	B	B	次年度も学習における基礎学力の定着と向上を目指し、個々に応じた適切な対応に努める。生徒指導や生活指導について指導充実を図ることで、進路実現に結びつくようにする。
		学習不応生生徒の個別指導を充実し、適切な支援に努める。①	B		
		資格取得指導の工夫・改善を図り、合格率の向上に努める。②	B		
		専門教科と実習の関連性を高め、生徒の知識・技術の習得に努める。①②	B		
	生徒指導の充実	授業時間確保のため、始業チャイムで着席させ、すぐに授業が実施できる指導を行う。③	B		
		実習室や教室で服装等の身だしなみをきちんとさせ、基本的な生活習慣を身につけさせる指導を行い、安全面や提出物等のルールやマナーを厳守する意識を育てる。③	B		
	進路指導の充実	生徒の進路希望に沿ったきめ細やかな指導や面接指導等を充実させて、生徒の進路決定までの助言・指導を行う。②④⑦	A		
	地域社会との連携	H P 等を活用して、積極的に機械科の紹介をしていく。⑩	C		
	学習環境の整備	実習時における清掃の徹底とゴミ分別を指導し、室内環境に関する衛生面の向上と整理整頓する意識を育てる。⑪⑫	B		
授業改善の推進	授業満足度アンケートの数値向上を目指し、生徒の興味を引く授業の実践と指導内容の充実を図る。⑮	B			

別紙様式2 (高)

		授業でのタブレットの活用と、プロジェクターや電子黒板を利用した教材提示を心掛け、わかりやすい授業の取り組みと改善を図る。⑩			
教科指導 (ロボット 工学科)	学習指導の充実	授業・実習の質の向上と評価方法の研究を行う。①	A	B	ICTの活用により、自主学習を促したため、資格検定に関する補習時間の短縮を図ったが、昨年度に比べ資格検定の合格率が低下した。補習時間の短縮には、ICT活用以外にも手段を講じる必要がある。地域社会との連携手段を維持することにより、学習環境の整備に時間を割くことが難しくなる。地域社会との連携手段を精査する必要がある。
		授業・実習を通じて生徒の学力定着と技能・技術の向上を図る。②	B		
	生徒指導の充実	挨拶励行や時間規律等の基本的な生活習慣及びマナーの定着を図る。③	A		
		服装・頭髪等の規律励行と作業安全教育の徹底をする。③⑫	A		
	進路指導の充実	資格試験の合格率向上を図る。②	B		
		キャリア教育に通じる進路指導を行う。⑦	B		
	地域社会との連携	保護者や地域への情報発信と共有を推進する。④⑨	A		
		地域イベントや出前授業など地域連携への積極的な参加を図る。⑤⑩	A		
	学習環境の整備	教員・生徒共に実習室の整理・整頓・清掃を順守する。⑪⑫	A		
		効率的で効果的な指導や業務のスリム化を検証する。⑬	B		
授業改善の推進	授業満足度アンケートの数値向上を目指し、生徒の興味を引く授業の実践と指導内容の充実を図る。⑮	B			
	授業でのタブレットの活用と、プロジェクターや電子黒板を利用した教材提示を心掛け、わかりやすい授業の取り組みと改善を図る。⑩	A			
教科指導 (電気電子科)	学習指導の充実	各教科において、基礎学力の定着と向上に努め、学習習慣の確立を図る。①	B	B	全国平均以上の合格率を目指し電気工事士、デジタル通信2級の両科目で達成できるようにする。
		生徒が感心・興味を持ち、自ら取り組める授業のための教材研究を推進する。①②	A		
	基本的な生活習慣の確立	実習等の集合時間・提出物の締め切り等の厳守。ルールやマナーを身につけさせる。②③	B		
	作業安全教育の推進	社会人としての資質を身につけさせ、正しい服装等で実習が出来るように指導し、作業安全のための姿勢をつくる。⑫	B		
		実習室等の整理整頓・節電を徹底する。⑪⑫	A		
	資格試験の合格率向上	各専門科目授業・課外指導・外部講師講習会等と連携を図りながら、全国平均以上の合格率を目指す。①②	B		
	進路指導の充実	進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の実現。⑧	A		
生徒の進路希望に沿った指導の充実。⑦⑧		A			
授業改善の推進	月に一度グループ学習を導入し、生徒同士の意見交換や学び合いの時間を確保する。⑮	A			
教科指導 (建築技術科)	学習指導の充実	各教科において、学習基礎力の定着を図る。また、実習や製図においてグループ学習が行えるような班編成をし、個々の能力に応じた授業を展開する。①	B	B	・建築技術科最後となるので資格試験を希望する生徒に対してサポート体制を整え、ジュニアマイスターを申請する生徒を過去最高にする。 ・サイエンスの生徒に対しての学習指導の見直しや検討を行い、新校に即する内容にする。
		「建築」に興味・感心を持ち、自ら考え意欲的に取り組む生徒を育てる指導を目指し、専門職種[建設業]の就職率を向上させる。①②⑧	B		
		外部団体との連携を図り、職業体験する機会を設ける。②④⑩	A		
	基本的な生活習慣の確立	実習等の集合時間・作品提出物の締め切り等の厳守。③	B		
		挨拶・マナーの実践徹底。③	B		
	作業安全教育の推進	社会人としての資質を身につけさせ、正しい服装等で実習が出来るように指導し、作業安全のための姿勢をつくる。⑫	B		
製図室・実習室等の整理整頓・節電を徹底する。⑪⑫		B			
資格試験の合格率向上	各専門科目授業、課外指導、外部講師講習会等で連携を図り、昨年度よりも合格率が上がるよう目指す。①②	A			

別紙様式2 (高)

	進路指導の充実	生徒の進路希望に沿った指導の充実。⑦	B	
		進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の実現。⑧	C	
	授業改善の推進	その授業で何が理解できるようになるのか、何を身につけることができるのかを導入部分でしっかりと示し、明確な目的や環境を与える。⑮		
校務分掌 (教務部)	基礎学力の定着・向上	学力向上委員会との連携による、学校設定科目『工科タイム』の運用と検討。①	C	B
		特別な配慮を要する生徒への対応策。校内連携の強化。①④⑫	C	
	学校運営の円滑化	定期考査、特編授業の時間割や年間、月間行事予定表などの作成。⑫⑬	A	
		シラバス、学校要覧などの作成、教具、教材の準備など。⑫⑬	B	
	各種データの統計と検証	特色選抜入学生徒、転退学者数、欠席、遅刻日数、学校評価アンケートなど。③⑨	A	
	働き方の改革の推進	毎週火曜日を定時退勤日に設定・周知する。⑬	C	
校務分掌 (進路指導部)	高校3年間の明確な進路指導法の計画・立案・実施	高校3年間の俯瞰し、進路実現に向け、高校3年間の目標の持ち方・具体化の方法を検討・計画・実施させる。⑦⑧⑫	B	B
		各学年と密に連携し、進路に関わる企画・計画をできる限り積極的に検討・提案し、協働する。⑦⑧⑫	B	
		進路情報を収集・精査し、生徒や教員がより効果的に活用できるように努める。⑦⑧⑫	B	
	企業との連携強化と求人への安定確保	地元企業はもとより、遠隔地域の企業への働きかけを積極的に行う。また、求人エリア・数を拡大する。④⑩⑪	A	
		企業が求める人物像等を分かりやすくまとめ、生徒に還元し、効果的な斡旋を実現する。④⑩⑪	B	
	マナー・コミュニケーション能力向上のための指導推進	第3学年の斡旋就職希望生徒全員にマナトレを実施する。一人一人への適切な指導を行うことで、企業に対し自信をもって推薦できる生徒を育成する。⑦⑧⑨⑬	B	
		1年生は『学校生活の充実』、2年生は『進路選択・実現の準備』、3年生は『進路実現』を各々の目標とし、その実現に向けての指導を図る。⑦⑧⑨⑬	A	
		生徒指導部と連携し、普段の学校生活での『挨拶』『5分前行動』『校則遵守』等マナーやコミュニケーションへの意識づけを行う。また、保護者とも連携して、これらを積極的に推していく。⑦⑧⑨⑬	B	
	基礎学力向上のための指導の検討・実施	進学・就職双方に対応すべく、『外部テスト』の積極的運用を学力向上委員会ならびに関係各所に促す。①⑤⑥⑫⑬	B	
		工業高校生のステータスである『資格』の有効性を説きつつ、積極的に受験を促していく。工業高校生としてのモチベーションアップを図る。①⑤⑥⑫⑬。	B	
	進路活動の積極的発信	進路の活動内容を積極的に発信していく。そのために、各学年・各科、各校務分掌と情報を共有し連携していく。④⑨⑩⑬	B	
		3年間を通した系統立てた指導により、希望の進路を実現していく。少子化、高卒求人増により、希望の進路実現と結果を出していくことに力を注ぐ。進路状況については逐次HP、進路通信等で知らせる。④⑨⑩⑬	B	
校務分掌 (生徒指導部)	学校生活における安全確保	貴重品及び自転車等について管理施錠の徹底を図り、生徒個人の物品管理に対する意識向上を図る。⑫	B	B
		各種講演会を実施し、事件や事故に関する注意喚起と予防を図る。⑩⑫	A	
		校内・外の巡回を定期的に行い、生徒の問題行動・交通事故の未然防止に努める。⑪⑫	B	

・学力向上委員との連携を次年度は積極的に実施するなど、校内連携に努める。
・定時退勤日の周知についても徹底し、働き方改革に努める。

就職の早期内定決定（第1回目採用試験での内定者54/55）と大学進学27名（目標20名以上）を出すことができた。来年度も、求人数、大学の指定校数ともに好調であると予想される。この数値に甘えず、しっかりとした指導をしていきたい。

・社会の学校のルールに対する関心や生徒・保護者の価値観の多様化の中で、頭髪や服装、マナーなどの指導におい

別紙様式2 (高)

		学期ごとに自転車点検を実施し、登録番号・施錠の確認をすることで盗難防止と車両管理の重要性を意識させる。⑫	A	て、教員間の連携強化と情報共有を徹底した生徒指導体制の確立が課題である。
		バイク・自転車通学者に対して安全指導を行い、交通安全の重要性を認識させる。⑩⑫	B	
	高校生さわやかマナーアップの実践	朝の登校指導を行い、挨拶指導を通して生徒と教員間の関係性を深め、マナー向上に努める。⑤⑨⑫	B	
		毎月初めに服装頭髪指導を実施して清潔感のあるクラス経営と担任・副担任と生徒間の交流を深めながらマナー向上を目指す。⑪⑫	B	
	マナー・モラルの向上と校内外の連携	長期休業明けに服装・頭髪の改善等について保護者に通知するとともに、学年団との連携をとりながら指導内容の充実を図る。⑨⑪	B	
校内職員と連携を図り、PTA 総会・三者面談等において保護者への協力を依頼しながら生徒に無理のない指導を行う。⑨⑪		B		
校務分掌 (環境厚生部)	安全管理・安全教育の推進	防災訓練を計画・実施し、災害時の適切な行動や安全に対する知識の習得を目指す。④⑫	A	B ・近年多く発生している災害に対応できる能力の育成に力を注ぐ。 ・学習環境をより良くしていくために、多角的な視点から働きかけていきたい。 ・教育相談が必要と思われる生徒に対して、担任・保護者・関係機関との連携を強化していく必要がある。
		防災講話等の実施により、防災に対する意識の向上をはかる。④⑫	B	
		防災計画を立案して、学校全体の安全管理を徹底すると共に、安全点検により学校施設・環境の安全確保に努める。⑫	A	
	「健康づくり」の推進	健康診断により自分自身の健康状態を把握し、自らの健康を管理する能力を養う。③	A	
		健康講話を計画・実施し、保健指導の充実をはかる。④	B	
		「健康だより」の発行。③	B	
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別・軽量化を推進する。⑫	B	
		清掃用具の点検・充実をはかる。⑫	A	
	教育相談の必要な生徒の迅速な把握と適切な対応	担任や学年・教科担当者との情報交換を密に行い、生徒の状況把握に努める。⑫	B	
		スクールカウンセラー、場合によってはスクールソーシャルワーカーの協力を得て支援活動にあたる。④	B	
		問題を抱えた生徒については、保護者との連携を行い対応する。④⑨	B	
		広報誌（ピアルームプレス）を定期的に発行する。⑫	B	
スクールカウンセラーや外部機関との連携の推進	スクールカウンセラーによる担任・保護者への助言の場を積極的に設け支援の充実を図る。④⑨	B		
	特別支援教育コーディネーターと共に発達障害を持つ生徒への理解・指導の工夫を図る。④⑫	B		
	合理的配慮を要する生徒の指導にあたっては、特別支援教育専門家派遣事業等外部機関との連携を位置づける。④	B		
校務分掌 (図書視聴覚部)	図書館及び図書の利用の促進	購入希望図書については積極的な募集を行い、短期間で新刊を図書館に並べる。①②	A	B いかに図書館にあしを運んでもらうかが課題である。図書便りは図書委員の生徒が協力してくれるが、月初めに発行できるようにしたい。classroom にあがることで生徒の目に触れやすくなった。また放送委員の生徒達に学校行事等で機器のセッティングや活用できるよう指導したい。
		リクエストボックスを設置し、生徒に親しまれ役に立つ蔵書の充実を図る。①②	B	
		図書便り（尚友・おすすめ本）を発行し、生徒が図書館へ足を運ぶきっかけをつくる。①⑤	A	
	委員会活動の活性化	図書の貸し出しや蔵書の管理業務を習熟させ、主体的に委員会活動が行えるように指導する。⑤	A	
		学校行事での放送機器のセッティングや操作を習熟させ、主体的に行えるよう指導する。⑤	B	
	放送室の整備	放送室が有効に使用されるようにする。②⑫	B	

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (特別活動部)	生徒が主役になる特別活動の充実	生徒を主体とした学校行事の企画・運営を通し、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。⑤ ホームルーム活動や生徒会活動を通し、生徒一人一人に自覚と責任感を培う機会を与える。また、生徒相互の連帯感を深める。⑤	A A	A	各学年の生徒と一緒に活動できる放課後の時間が週1回しかない為、活動する時間の確保が課題となる。
	ホームルーム活動の推進	「キャリアパスポート」を活用し、生徒の自己実現につなげる。⑥	B		
	生徒会活動の推進	ボランティア活動(エコキャップやプルタブの回収)に参加することで、社会の一員であるという自覚を持たせると共に豊かな人間性を養う。④⑩⑪	B		
		委員会活動を活発化するために、活動内容・活動時期等の見直し等を含め、体制を学校全体で考えて取り組む。⑤	A		
	働き方改革の推進	特別活動に関する業務内容の見直し改善を図り、適切な役割分担と業務の効率化により教職員の負担を軽減する。⑬	B		
校務分掌 (渉外部)	PTA活動の活性化	PTA総会への保護者の積極的参加 ④⑨⑩ ・文書の早期配布、出欠確認の徹底 ・緊急情報配信メールの効果的活用・HPでのPR・迅速、丁寧な対応	A	B	・PTAに入会しない保護者が増える傾向にある。その原因等を調べ、今後のPTA活動に活かす。 ・保護者との連携強化を図ると共に、生徒のサポート体制を整える。
		広報活動の積極的実施 ⑨⑩ ・広報誌の発行(年2回) ・行事等のPR(文書、メール、HP)	B		
	保護者との連携を強化すると共に事業継続を図る。	研修活動の充実 ⑨⑩ ・研修講座の実施(会員へのPR、工業科との連携、会員相互の交流) ・研修旅行の実施(会員相互の親睦を深め、見聞知識を広める)	A		
		生徒指導への貢献 ④ ・生徒指導行事の参加を通じて生徒の生活指導を行うと共に、地域社会に貢献する。	B		
		各年委員会行事の実施 ⑨⑩ ・学校行事への保護者の参加を通じて、PRし、親子間・委員相互の人間関係の円滑化を図る。	B		
		PTA会員との密な意見交換(本部役員、委員会、行事参加等を通じて) ④⑨⑩	A		
校務分掌 (情報管理部)	ICTを利用した授業の推進	ICT機器、コンピュータの整備、システムの活用に関する研修会を行う。①②⑬	B	B	・推奨端末が変更されるため、生徒の個人端末・教員用端末の管理方法の整備を行う。 ・各科、領域で整備された情報機器やライセンスの情報を集約し、管理方法を整備する。
		職員のICTスキルアップを促進する。①②⑬⑯	B		
	公式サイトによる情報公開の推進	公式サイトの作成を各部署に分散し、サイトを組織的に運営する。④⑥⑨⑩	B		
		公式サイトの更新回数を増やし、情報公開に努める。④⑥⑨⑩	B		
	教育支援システムの維持管理と活用	教育支援システムの円滑な運営と活用ができるように計画し実施する。①②⑬ 資格・検定の管理や統計処理を行う。①②⑦⑧	B B		
校内LANの整備とその運用の活性化	情報機器、校内ネットワークの整備を行い、有効利用を図る。①②⑯	B			
	個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策を実施する。⑫	B			
学年指導 (第2学年)	保護者との連携	保護者への細やかな対応、生徒の様子について共通理解を図る。④⑨⑩	B	B	・「imamirai手帳」「Classi」の活用 ・基本的生活習慣の確立については、学校全体での共通理解を図った指導が必要 ・進路指導の充実(行事等による生徒の意識向上、身だしなみ指導)
		学年便り等を通して、保護者への積極的な情報発信に努める。⑨	B		
	基本的生活習慣の確立	頭髪・服装等の身だしなみに注意し、制服や実習服の正しい着用を指導する。③	B		
		時間厳守、教室の美化に努め良好な学習環境をつくる。③⑩⑫	B		
		「imamirai手帳」を活用し、メモを取る習慣の定着を図る。③⑦	B		
	学力向上と資格取得	「Classi」の活用や「基礎力診断テスト」を行い、基礎学力の定着を図る。①⑦	B		
資格の情報を与え、資格取得を積極的に促すとともに、補習等を実施する。②⑦		B			
進路実現への意識向上	進路ガイダンスや見学会等を通して、生徒が主体的に進路を選択決定できるよう情報提	A			

別紙様式 2 (高)

	修学旅行の充実	供に努め、自分の将来を考えさせる。⑥⑦⑧		B	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得の学科を超えた指導方法の検討 最終学年（工科としても）として、よい結果が出るための指導
		面談等を通して生徒理解に努め、進路選択に向けて考えさせる。⑦⑨			
		集団行動や生活、他者と触れ合い交流をする中で、生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る。③⑥	A		
		平和学習や体験学習を通して、沖縄の歴史や文化を学ぶ。③④⑥		B	
学年指導 (第3学年)	進路希望の実現	進路ガイダンスや面接指導、HR活動における進路の諸活動を通して、生徒が主体的な進路選択ができるような情報の提供、環境づくりに努める。⑦⑧		A	B
		進路活動を円滑に行うための、保護者対象説明会を開催する。 保護者との連携をとりながら、細かな支援・アドバイスを行う。⑦⑧		A	
	基礎学力の向上	S P I や基礎学力診断テスト等を行い、基礎学力の一層の定着を図る。①②		B	
		資格取得を積極的に促す。②		B	
	基本的な生活習慣の確立	学年集会、HR活動、服装頭髪指導などを通し基本的な生活習慣を確立させ、マナーや規範意識を身につけさせる。③		B	
		「imamirai手帳」を活用し、メモを取る習慣の定着を図る。③⑦		B	
	生徒指導の徹底	進路活動を意識した頭髪や制服、実習服の正しい着用を指導する。③		C	
		時間厳守、教室の美化に努め良好な学習環境をつくる。③⑪⑫		B	
	保護者との連携	保護者への細やかな対応、生徒の様子について共通理解を図る。⑨		A	
		学年便り等を通して、保護者への積極的な情報発信に努める。⑨⑩		C	

※ 評価規準 A:よくできた B:普通 C:やや不足 D:不足